

元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類 — 2021年度の調査記録 —

星野由美子*

A Observation Record of Wild Bird in the Fureainosato-Okuizumo Park in Shimane Prefecture. — Survey record for 2021 —

Yumiko Hoshino

1. はじめに

「ふれあいの里奥出雲公園」は、鳥根県中部に位置する県有地である。同公園は2019年から閉園となっており、現在は、関係者以外は立ち入ることができない。園内およびその周辺は中山間地特有の山と谷が入り組んだ地形となっており、広い夏緑広葉樹の二次林にスギ *Cryptomeria japonica*、ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* などの植林地がモザイク状に混在している。

同公園では、繁殖期を中心に公園で生息する鳥類相を把握するとともに、当地で繁殖している可能性がある鳥類の確認を目的として、2008年から現在まで鳥類の生息調査を実施している。鳥類相の調査結果は、2008年から2012年までの5カ年の結果を報告した(星野ほか,2013)が、その後も調査を継続しており、昨年度は初記録の種も確認されたため2020年度の調査結果を報告した(星野,2021)。本報告では、本年度調査を実施した2021年4~11月に確認された鳥類種を報告する。

2. 調査地の概要

元ふれあいの里奥出雲公園(以下、公園とする)は、鳥根県中部の雲南市掛合町波多にあり(図1)、森林を中心とした標高350~615mの起伏に富んだ面積約180haの公園である。

森林は、コナラ *Quercus serrata* やアベマキ

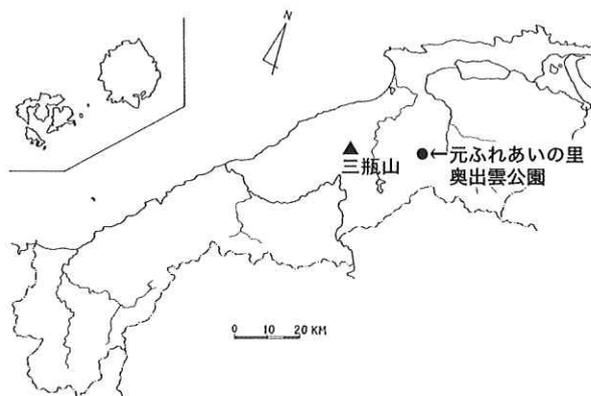


図1 元ふれあいの里奥出雲公園位置図

Quercus variabilis を中心とした夏緑広葉樹林にアカマツ *Pinus densiflora* やスギ、ヒノキの針葉樹がモザイク状に混在している。また公園内を南から北西にほぼ縦断する形で流れる河川があり、上流にあたる公園入り口付近には約80m²の貯水池がある。この池の下流側には東西の斜面から幾筋もの谷が落ち込み、水量が豊富な溪谷となって神戸川へと合流している。

本年の同地の気象状況は、公園に最も近い気象観測地点であり標高がほぼ同じ「赤名」の気象データによると、この付近の2021年の日平均気温は12.0℃、年間降水量は2590.5mmである。本年の最高気温は8月に34.0℃、最低気温は1月に-9.8℃を記録した。1日の最大降水量は7月に151.0mmが記録された。

* 鳥根県立三瓶自然館, 〒694-0003 鳥根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

3. 方 法

調査はラインセンサス法とスポットセンサス法による基礎調査と鳥類を捕獲して行う標識調査、ならびに標識調査の際に平行して終日の観察鳥類を記録する重点調査の3通りで実施した。

調査の対象とした期間は、基礎調査を4～12月、標識調査と重点調査を5～8月に実施した。1～3月は積雪のために入園が困難となるため調査期間からは外した。

(1) 基礎調査

4～12月の8:30-12:00までの間に、1カ月に1回の頻度で約1 km/h の速度で調査ルート（図2）を歩きながら、双眼鏡を用いて目視と鳴き声で確認したすべての種類を記録した。またルートの途中には定点を3地点定めて15分間に確認した種類を記録するスポット

センサスも行った。ルートから離れた定点4は、本年は倒木のため到達できなかったため記録はない。

(2) 標識調査

標識調査は、5～8月の間の1ヶ月に1回、それぞれ連続した4日間で行った。捕獲には、基本的に30または36mm メッシュのかすみ網（高さ2.5m、長さ12m）を用い、状況によっては61mm メッシュや長さ6mの網を用いることもあった。網は、公園内の森林内部、林縁部、溪流沿いの鳥が通過しそうな場所を選び、20枚程度の使用を基本として2～3カ所に設置した。なお、本標識調査は、鳥類の捕獲や取り扱いに高度な技術をもつ複数の鳥類標識調査員を中心に実施した。

(3) 重点調査

重点調査は、標識調査の際に併せて実施し、標識作

ふれあいの里奥出雲公園園内図



図2 ふれあいの里奥出雲公園全体と基礎調査のルート

業場所やかすみ網設置場所付近、またその間のルート上で、調査時間内（主に日の出1時間前から日没後1時間程度）に目視や鳴き声で確認されたすべての種を記録した。

それぞれ種名の表記は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会、2012）に従った。

4. 結 果

(1) 確認種

調査において確認された全ての鳥類は27科67種であった（表1）。確認種リストには、環境省（2020）および鳥根県（2014）のレッドリストおよびレッドデータブックのカテゴリーならびに鳥根県における渡り区分（日本野鳥の会鳥根県支部、1997）を記載した。

渡り区分において、もっとも多く確認されたのは留鳥が32種（全確認種における割合は47.8%）で、次いで夏鳥18種（26.9%）、冬鳥8種（11.9%）、冬鳥（一部留鳥）4種（6.0%）、旅鳥3種（4.5%）であった。なお、主に旅鳥で、一部夏鳥とされているノビタキ *Saxicola torquatus* については、秋のみの確認であるため旅鳥に含めた。

今回の調査における確認種を調査方法別に見ると、基礎調査では23科55種（全確認種における割合は82.1%）、重点調査では26科66種（同98.5%）を確認した（表1）。目視で確認する2つの調査を合わせると26科66種となり確認種全体の98.6%となった。また、標識調査では、19科30種（同44.8%）を確認した。このうち標識調査のみで確認された種は、エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides* のみであった。

これまでの調査では36科94種が報告されており（星野ら、2013；星野、2021）、今回の調査ではそのうちの27科63種が確認された。これまでのリストに無い確認種は4科4種でカモ科のコガモ *Anas crecca* とタカ科のハイタカ *Accipiter nisus*、ムシクイ科のエゾムシクイ *Phylloscopus borealoides*、アトリ科のマヒワ *Carduelis spinus* であった。

(2) これまでのリストにない種の出現状況

①コガモ

本種は、11、12月の基礎調査において姿が確認された。11月19日および12月9日の午前中に調査地内の池の水面で休息する姿が観察された。

②ハイタカ

本種は、5月に実施した基礎調査において、上空を

飛翔する姿が確認された。5月14日のみの確認であった。

③エゾムシクイ

本種は8月に実施した標識調査において幼鳥1羽が確認された。8月27日に標高460m付近の尾根上に設置した36mmメッシュ（No.T6）のカスミ網で捕獲した。

④マヒワ

本種は4、11、12月に実施した基礎調査において鳴き声と姿が確認された。調査コースの林縁部の樹上で4月15日は3羽、11月19日は3羽、約10羽、約30羽の3つの群れを、12月9日は15羽、8羽、10羽程度の3つの群れをそれぞれ確認した。

(3) 確認された希少種

これまでの報告（星野ら、2013；星野、2021）では、各調査において環境省や鳥根県のレッドデータ（以下、RDとする）種が11科18種確認され（星野、2013）、昨年の調査では10科16種であった（星野、2021）。今回新たに確認されたRD種は、ハイタカの1種であった。また、これまで確認されていたものの、今回の調査で確認されなかったRD種はヨタカ *Caprimulgus indicus*、ミサゴ *Pandion haliaetus*、ハチクマ *Pernis ptilorhynchus*、オオタカ *Accipiter gentilis*、オオコノハズク *Otus lempiji*、ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*、ヤイロチョウ *Pitta nympha* の7種であった。

そのうち本年の調査によって確認された15種は次のような状況であった。

①オシドリ *Aix galericulata* 【国：情報不足、県：準絶滅危惧】

本種は10月14日の基礎調査において調査地内の池で目視により10羽の群れが確認された。群れは雌雄で池に張り出した樹木の枝の陰で休息していた。

②ミゾゴイ *Gorsachius gousagi* 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧Ⅱ類】

本種は7月の重点調査において1羽の姿が確認された。7月23、24日の昼に樹林内で休息し、車輛の通過時に飛翔する姿が観察された。

③ツミ *Accipiter gularis* 【県：情報不足】

5月16日に標識調査において成鳥オス1羽が捕獲された。本種は昨年も5月18日に成鳥オス1羽が捕獲されたほか、過去にも複数回、標識調査で捕獲された。

2008年の基礎調査中には造巢行動も観察されたが繁殖の確認には至らなかった(星野ほか, 2010)。

④ハイタカ *Accipiter nisus* 【国：準絶滅危惧，県：情報不足】
前項のとおり

⑤サシバ *Butastur indicus* 【国：絶滅危惧Ⅱ類，県：絶滅危惧Ⅰ類】
5～9月の基礎調査，重点調査で観察された。基礎調査では6月25日に調査地の草地上空の高い所を鳴きながら飛翔する1羽と，9月9日に調査地内の池の上空高い所を飛翔する1羽を確認した。本年は営巣木や巣立ち後の幼鳥等は確認されなかった。

⑥クマタカ *Nisaetus nipalensis* 【国：絶滅危惧ⅠB類，県：絶滅危惧Ⅰ類】
7月の重点調査，9月の基礎調査で上空を飛翔する1羽が観察された。

重点調査では7月25日に，基礎調査では9月9日に調査地上空の高い所を飛翔する1羽の姿が確認された。

⑦フクロウ *Strix uralensis* 【県：準絶滅危惧】
7,8月の重点調査で鳴き声を確認された。
7月23日および8月27日の早朝および夜間に本種の鳴き声を確認された。

⑧アオバズク *Ninox scutulata* 【県：準絶滅危惧】
毎年のように調査地内で鳴き声を確認されており，本年も5,7,8月に鳴き声を確認した。
また，標識調査においても7月25日にオスと思われる成鳥個体1羽が捕獲された。標識調査では前年の6月25日にメスと思われる成鳥個体1羽(星野,2021)に続き2例目であった。

⑨アカショウビン *Halcyon coromanda* 【県：絶滅危惧Ⅱ類】

本種には照度やGPSデータを記録するデータロガーを装着しているが，本年はデータロガーの回収はできなかった。5～8月の基礎調査と重点調査で鳴き声を確認され，標識調査においての捕獲数は11羽であった。そのうち8月27日に捕獲された1個体は尾羽の枚数が通常と異なっていた。アカショウビンの尾羽は6対12枚が基本であるのに対し，当該個体の尾羽は7対14枚であった(図3,4)。

⑩ヤマセミ *Megaceryle lugubris* 【県：絶滅危惧Ⅱ類】
本種は標識調査と基礎調査において確認された。標識調査では7月25日に幼鳥と思われる個体1羽が捕獲された。また基礎調査では10月14日に調査地内の池において周辺の樹木の枝から飛び立つ姿が観察された。

⑪サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* 【国：絶滅危惧Ⅱ類，県：情報不足】
本種は5～8月の基礎調査と重点調査において調査地内全域で複数個体の鳴き声を確認された。

⑫サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata* 【県：情報不足】
本種は6,7月の重点調査で鳴き声を確認され，標識調査においても5,6月に捕獲された。標識調査で捕獲された個体のうち，5月は成鳥メス1個体，6月は成鳥メス3個体であり，6月の個体のうち1羽は5月に標識された個体の再捕獲であった。繁殖の兆候として，5月18日のメスは未発達ながら抱卵斑が確認された。6月14日に再捕獲された際には抱卵斑の発達が見られた。また，6月13日のメス個体2羽にもやや発達した抱卵斑が確認された。



図3 8月7日に捕獲されたアカショウビン幼鳥

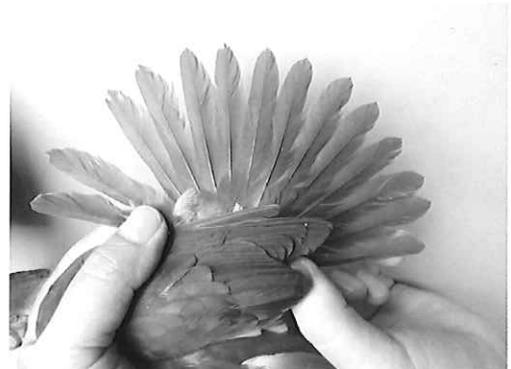


図4 尾羽が7対14枚ある

⑬コルリ *Luscinia cyane* 【県：情報不足】

本種は5,8月の標識調査および8月の重点調査において確認された。重点調査では鳴き声ではなく、道路脇で採食する姿が観察された。標識調査では2羽が捕獲され、5月18日に成鳥オスが1羽、8月27日には幼鳥の第1回冬羽オスが1羽であった。

⑭ノビタキ *Saxicola torquatus* 【県：情報不足】

本種は10月14日の基礎調査の際に調査地内のため池のほとりのヨシや草原のススキの間で姿が確認された。

⑮コサメビタキ *Muscicapa dauurica* 【県：情報不足】

本種は4月15日の基礎調査において1羽のさえずりが確認された。

謝 辞

本年度の標識調査にあたっては、環境省標識調査員の市橋直規、古園由香、小林徹、鈴木仁、鳴海末信、深谷治（五十音順）および山階鳥類研究所元職員の米田重玄の各氏にご助力いただいた。また岩谷由美子および中田朋子両氏には標識調査の際に作業補助等のご協力をいただいた。土地および施設所有者である鳥根

県（自然環境課）には施設利用に関してご配慮をいただいた。この場をかりて心よりお礼申し上げる。また、アカショウビンのデータロガー装着に関する研究は（公財）山階鳥類研究所の仲村昇氏との共同調査で実施した。

引用文献

- 星野由美子・市橋直規・中森純也（2010）ふれあいの里奥出雲公園の鳥類相（中間報告），鳥根県立三瓶自然館研究報告8: 33-39.
- 星野由美子・市橋直規・中森純也（2013）ふれあいの里奥出雲公園の鳥類相，鳥根県立三瓶自然館研究報告11: 21-30.
- 星野由美子（2021）元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類—2020年度の調査記録—，鳥根県立三瓶自然館研究報告19: 73-78.
- 環境省（2020）環境省レッドリスト2020鳥類，環境省，東京
- 日本鳥学会（2000）日本鳥類目録改訂第6版，日本鳥学会，345pp，東京
- 日本野鳥の会鳥根県支部（1997）しまねの鳥，日本野鳥の会鳥根県支部，184pp，鳥根
- 鳥根県（2014）改訂しまねレッドデータブック，鳥根県，鳥根 p.318